

山番号	山名 (別名)	蝦夷富士	登頂順	標高M
79	鳳凰山		79/100	2,840
登頂年月日		山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2009.10.17			63	10/16南アルプス温泉
平成21年				ロッジ、10/17鳳凰小屋
メンバー		主催	毎日新聞旅行	
単独	複数	ガイド	人数	リーダー
		ツアー	11	川原井氏
			10/16毎日新聞社前 8:12⇒13:50サント リー白州蒸留所13: 13⇒16:30南アルプ ス温泉ロッジ	
同時登頂百名山		別々登頂	縦走登頂	薬師・地蔵
コース	10/17		ロ5:00⇒6:21夜叉神小屋11:24薬師岳⇒12:10 観音岳⇒13:50養ノ河原・地蔵岳⇒14:40鳳凰小屋 ＜歩程8:20 標高差1,480m＞	
	10/18		小屋6:30⇒9:50青木鉱泉⇒⇒17:30梅田 ＜歩程3:20 2日間合計17km 標高差1,312m＞	
<p>サントリーの白州蒸留所に寄ったのは酒好きのガイド川原井さんの企画か。「白州」のオンザロックが美味しかった。川原井さんはガンガン進む。鳳凰3山は景色のいい薬師岳、最高峰の観音岳、そしてオベリスク聳える地蔵岳で完登となる。3日目は1,312mを3時間20分で下ってしまった。毎日新聞には他に川村さんが居る。ザックの中1/3は缶ビールだ。食事前に6缶開ける豪傑だ。</p>				

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M	
80	北岳	27/100	3,192	
登頂年月日		山頂天候	年齢	
1998.7.26			52	
平成10年				
メンバー		主催	タートルクラブ(個人)	
単独	複数	ガイド	人数	ガイド
		ツアー	2	千葉ガイド
			7/24長野⇒松本 ⇒甲府(ターミナル ホテル泊)7/25 甲府駅集合10:15 ⇒広河原	
コース	7/25		大樺沢出会12:25⇒二俣15:00⇒17:50肩ノ小屋 ＜歩程5:25 標高差1,480m＞	
	7/26		小屋6:10⇒7:00頂上7:10⇒12:13大樺沢出会 ＜歩程3:20 標高差1,430m＞	
交通手段		往路:7/24 JR「ひかり」、	現地:7/25バス	復路:7/26バス、JR
<p>補助椅子まで満席のオンボロバスで甲府から2時間、広河原まで暑くて辛い乗車だった。ガイドは普段はサラリーマン、今回男2人の案内。普通は白根御池小屋に泊まるが一気に肩ノ小屋まで1,430m登ったせいか少々頭痛がした。テント泊の予定だったが、雨になり、到着も遅くなったので小屋どまりに変更、すぐ食事でありつけてホッとした。もう一人のおじさんのイビキがすごかった。イビキは先にかいて寝た者勝ち、今回は負けだ。翌朝、小雨の山頂に立った。国内第二位の高峰からの景色は見られなかった。私の場合晴れ間の山頂は46%。半分は曇りや雨やガス、時には雪もあり展望を楽しめない率は割と高い。</p>				

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M	
81	間ノ岳	99/100	3,189	
登頂年月日		山頂天候	年齢	
2012.9.16			66	
平成24年				
メンバー		主催	アルパインツアー	
単独	複数	ガイド	人数	リーダー
		ツアー	男5 女10	阿波氏、川名氏 他2名
			昨年と同企画のツアー。 参加の女性が間ノ岳の手 前で滑落事故を起こし前 途を中止した。今回はそ のリベンジ。	
同時登頂百名山		別々登頂	縦走登頂	往復北岳経由
コース	9/15		広河原13:00⇒15:54白根御池小屋＜歩程2:54 標高差716m＞	
	9/16		小屋5:40⇒9:40北岳山頂⇒14:01間ノ岳山頂⇒15:55北岳山荘 ＜歩程10:15 標高差956m＞	
	9/17		山荘5:30⇒6:55北岳山頂7:50⇒12:40広河原⇒⇒甲府駅解散 ＜歩程7:20 標高差1,672m＞往復共JR静岡経由、甲府集合、解散	
<p>前回の60歳の女性の転落事故を受けてか、今回は充実したスタッフ体制。阿波氏は北海道の山岳救助隊出身で幌尻岳でも世話になった。宴会、事故現場を抜けて間ノ岳に登頂。曇りで景色は断念。農鳥岳は近い、このまま縦走したいがツアーの悲しさ、北岳小屋に引き返した。黒川記章設計だそうだが「らしさ」は感じないオーソドックスな設計。それより白根御池小屋は内装の白木が真新しいきれいな小屋で設備も良くヨーロッパ並みの快適さだった。</p>				

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
82	塩見岳	76/100	3,047
登頂年月日		山頂天候	年齢
2009.8.2 平成21年			63
山中宿泊小屋			
8/1小洪温泉「赤石荘」 8/2「塩見小屋」			
メンバー		主催	関西ツーリスト
#	複数	ガイド	人数
			吉岡氏
南アルプスの山は標高が高く奥深いからしんどいイメージが有ったので後回しにしてきた。もっと体力のある時期に登るんだ			
A	8/1		竹田9:40⇒15:40「赤石荘」
	8/2		鳥倉林道終点5:30⇒14:35山頂西峰、東峰⇒15:30塩見小屋 <歩程10:00 標高差1,417m>
	8/3		小屋5:15⇒10:50登山口⇒赤石荘⑤13:30⇒竹田 標高差1,130m
<p>「赤石荘」で鹿のジビエ料理が出た。少し臭味はあるが食べられる。近年の鹿害対策だそう。以前、唐沢峠では珍しい鹿のルイベが出た。</p> <p>山で鹿に出会う事はある。悲しげな鳴き声も聞く。2日目の塩見小屋では珍しく陶器の食器に数種の揚げ物、品数も多く美味しかった。これも女性や高齢客が増えたお陰だろう。日本はしんどいピークハントが主で、山小屋もそのサポートが基本である。山道の管理や遭難者の救出などの機能も果たすありがたい小屋だがヨーロッパアルプスの山小屋とまでは言わないが、まだまだ垢ぬけて良い。ヨーロッパには多様な楽しみ方の山文化がその背景にある。日本ももっと多様化して行くのだろう。ずーと雨だったが最終日は梅雨明けで晴れた。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
83	悪沢岳	92/100	3,141
登頂年月日		山頂天候	年齢
2011.9.19 平成23年			65
山中宿泊小屋			
9/17榎島ロッジ 9/18千枚小屋			
メンバー		主催	毎日新聞旅行
#	複数	ガイド	人数
			川原井氏(3回目)
毎日新聞旅行			
川原井氏(3回目)			
同時登頂百名山		別々登頂 縦走登頂	同日赤石岳へ
コース	9/17		毎日新聞社前7:21⇒寸又峽温泉 ⇒16:30榎島ロッジ
	9/18		ロッジ6:00⇒11:00見晴台⇒13:15千枚小屋 <歩程7:15 標高差1,487m>
	9/19		千枚小屋5:15⇒6:57丸山⇒7:38悪沢岳山頂⇒赤石岳へ <赤石岳までの歩程8:35 標高差1,487m>
<p>9/17台風15号が接近中の山行だったが影響は無かった。手前で迎えるバスに乗り換えたとたん最悪の地道、1時間のロデオ状態でヘトヘトになった。榎島ロッジはきれいなログハウスだった。9/18榎島から見晴台までは涼しい林間の登り、ここから明日のコースの全貌が眺められてファイトが湧いてきた。夕方、千枚小屋からの富士山は夕陽にピンクに染まって今まで観た富士では一番の美しさだった。翌日の悪沢岳からは360度文句なしのパノラマだった。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
84	赤石岳	93/100	3,120
登頂年月日		山頂天候	年齢
2011.9.19 平成23年			65
山中宿泊小屋			
9/19赤石小屋			
メンバー		主催	毎日新聞旅行
#	複数	ガイド	人数
			川原井氏(3回目)
毎日新聞旅行			
川原井氏(3回目)			
同時登頂百名山		別々登頂 縦走登頂	同日悪沢岳より
コース	9/19		悪沢岳山頂7:50⇒10:30荒川小屋11:15⇒13:50赤石岳⇒16:20 赤石小屋<赤石岳からの歩程2:30 標高差1590m>
	9/20		赤石小屋5:45⇒9:10榎島ロッジ 10:10⇒⑤⇒19:20梅田 <3:251,407歩程2:30 標高差1590m>
			<2日間歩程25.5km 標高差2,018m>
<p>9/19、2度のアップダウンコース、悪沢岳のつづきで二つ目のピーク赤石岳に向かう。標高差は合計で登りが950m、下りが941m。山道で赤い石をよく見かけた。川原井ガイドから赤石岳の名前の由来だと聞いて初めて知ったが、こんなことも知らないで登っている自分に気付いた。ガイドの試験で花の知識が必須だそうだが、私は花ばかりではなく造山過程や地形学、地質学の話も聞きたい。そう思うとハンマーやルーベが欲しくなった。</p>			